

神経の難病「パーキンソン病」の治療を行う国立病院機構徳島病院（吉野川市鴨島町敷地）が、太極拳を取り入れたリハビリメニューの開発に取り組んでいる。太極拳のゆっくり

した動きを応用し、体のバランスが狂い転倒しやすくなる症状を緩和しようという試み。研究段階から患者に好評で、メニューが完成すれば新たな治療法として注目されそうだ。

## 吉野川市 徳島病院メニュー作り

そこで、神経内科の三ツ井貴夫医師が、呼吸を整えゆっくり体を動かす太極拳の感覚をリハビリで身に着けてもらおうと発案。NP法人日本健康太極拳協会（東京）の指導士小田眞由美さん（62）＝同町西麻植＝にメニュー作りを依頼した。

徳島病院によると、パーキンソン病の患者は筋肉のコントロールがうまくできず、歩き出したり立ち上がった際、手足の震えやこわばりといった症状は薬や手術で緩和できるが、こうした無意識な動作の障害は治療が難しい。これまでのリハビリでは効果が出てくれない。

## 転倒防止や症状緩和



パーキンソン病向けに、太極拳を応用したリハビリメニューを研究する小田さん（左）＝吉野川市鴨島町の徳島病院

# パーキンソン病 太極拳 リハビリ活用

パーキンソン病 脳内で神経伝達物質のドーパミンが不足し、手足の震えや動作が緩慢になる症状が

徐々に進行する病気。10万人に150～200人の割合で発病するといわれ、県内の患者は千人以上とされる。

小田さんは2月中旬から2月2、3回、徳島病院で患者に太極拳を指導。重心の移し方や姿勢の保ち方など

患者の反応を見ながらパーキンソン病に適した動きを研究しており、協会本部の会員や三ツ井医師と相談し、来春にも完成させる。三ツ井医師は「太極拳の滑らかな動きはリハビリに最適で、患者の評判もいい。転倒防止に役立つメニューを作りたい」と話している。（秋月悠）